



ボールルームでの開会式の様子:

ここでは、米国環境保護庁長官スティーブ ジョンソン氏(以下の写真参照)からのご挨拶と激励のお言葉をいただき、それからガールスカウトたちによるブラウンフィールド再開発援助活動が紹介されました。大人だけではなく子供たちもブラウンフィールド再開発に関する教育を受け、より魅力的なコミュニティーづくりに貢献しているそうです。



教育セッションの様子:

本会議では 100 以上の教育セッションが用意されており、各自がそれぞれ関心のあるセッションへ参加して活発に意見交換や質疑応答を行います。



会議 2 日目、Todd さん(「Brownfields」の著者)とお会いして、このメルマについてお話をしました。「質問があったらなんでも聞いてね」というあたたかいお言葉をいただき、ひとつ大きなステップを踏み出したような気がしました～。

Thanks God, It's Friday!  
Thanks God, It's Brownfield!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

ガールスカウトは、町のブラウンフィールドをデータベースにするという使命を果たすようです。まずそれからはじめないと、活性化のための青写真をコミュニティーが描けないというのがその理由だとのこと。

会議は、アメリカ式の背筋がビビッとくるような演出ではじまり、ハイテンションの中で各セッションに突入しています。地元の新聞 (**The Denver Post**) も、元軍施設の浄化事業をブラウンフィールドコンサルタントに任せたらうまくいくようになった、というような記事を載せています。全体パネルディスカッションでは、モデレータージャーナリストが会場に向かって「あなたたちは、最高に重要な任務を果たすヒーローだ。」と持ち上げます。

こんなふうにエンパワーされたら、誰でも次のこの会議までめいっぱい、仕事に前向きに取り組んでいけるだろうと感じました。